

平成30年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平中学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

年度目標		年度評価(3月)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①主要5教科の基礎基本を徹底する。 ②体験学習から土台作りを行う。 ③様々な資格取得を目指す。 ④家庭学習・自学自習の定着を目指す。	①生徒が興味を持ち、主体的な学び、意欲を持って取り組むことができる環境を作る。 ②スペシャル・ウェンズデイなど体験型プログラムなどを通して、調べる・まとめる・発表する・考察するという学習の基本を身につける。また、最終的には、発表の場を設け、プレゼンテーション能力の向上につなげる。 ③将来を考えた中で、英検をはじめ資格の取得に向けた積極的な取り組みができる環境を作る。 ④毎日の家庭学習や自主学習など学習計画を立て、工夫できる環境を作り出す。	①ICTを活用し、複眼的にも生徒が興味関心を持って、取り組むことができるような環境作りを行う。また、研究授業や教員間の授業見学などを積極的に、特に主要5教科における基礎基本の定着とともに主体的な学びを支援することができる体制を整える。 ②外務省や大使館訪問、模擬裁判の実施など机上の学習では得ることができない知識や経験を様々な体験プログラムを通して身につける。 ③英語検定やGTEC、漢字検定への積極的な取り組みを促す。また、検定対策を積極的に行うなどの支援を行う。 ④能率手帳やSHシステム(自動問題作成システム)を積極的に活用し、計画的に自らの弱点の克服、学習ができる環境を作る。	①教員が授業力向上や生徒に分かりやすい授業を行っていく上で教材の作成など積極的な取り組みを行っている。生徒の学習状況を把握するために面談等を積極的にしている。 ②体験学習・体験型プログラムでは生徒が考える機会が多くなり、主体的な取り組みを促すことができている。 ③パワーイングリッシュ・プロジェクトの取り組みとして、英語検定取得に向け英語科だけでなく、全教員が指導を行っている。 ④生徒の計画的な取り組みを行うことができているか把握するために能率手帳を活用している。また、SHシステム(自動問題作成システム)も活用し、苦手教科の克服に向けた演習等を行っている。	①研究授業や授業見学で自らの授業力等の現状を把握する。また、年1回実施の授業評価アンケートによる客観的な評価から課題を抽出し、課題解決につながることを目指している。 ②体験学習・体験型プログラムを通して、生徒の新たな学びに対する向上心を持たせることにつながることができている。 ③全員が積極的に上位級の取得に向けて対策を行う体制、環境作りができたか。 ④能率手帳やSHシステムの活用で教員が現状の把握をし、生徒が現状の課題克服に向けた具体的な取り組みはできているか。	①学力推移調査の結果から分析すると、全体的に上昇傾向にある。特に英語については中学3年生が県内私学でトップとなるなど力をつけている。この要因として基本的な知識の定着を目指した授業展開を行った結果であると言える。 ②様々な体験学習、体験型プログラムを通して、生徒が主体的に学ぶ姿勢が見られたことから成長につながっていると言える。 ③英検の級取得率においては中学校全体で%超となり、2年生はほとんどの生徒が3級以上を取得、3年生は過去最高の84.1%が準2級を取得するなど成果が上がっている。 ④家庭学習を計画的に取り組み姿勢が見られた。SHシステムも活用し、課題克服に努めた。生徒自身も成果を実感することで更なる成長を求める学習意欲の向上にもつながっている。	B	①IB授業と並行して特に主要5教科の基礎基本の定着を図る上で、教員の授業における工夫は必要となる。学力推移調査の分析をはじめ現状把握し生徒が自らの課題を知る上で明確にフィードバックをしていくことも大切となる。 ②体験学習・体験型プログラムを継続的に実施していく中でプログラム内容の精査など工夫が必要となる。生徒の更なる興味関心を引き出していく。 ③英語検定については英語科教員だけが指導を行うのではなく、全教員が合格者データの共有、取り組み内容の精査など合格に向けて積極的な取り組みを行っている。 ④生徒が自ら課題を発見できる環境を作ることで主体的な取り組みを促すことができる。システムの活用方法や、時間の使い方の周知など具体的な支援を行うさらに行っていく。
2	①日常における基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒会活動の活性化を図る。 ③情報交換やコミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①校内外における生活指導の状況を常に確認できる環境を作る。頭髪・服装における指導や挨拶の励行などマナー指導も行う。また、自転車通学者をはじめとする交通事故防止対策を徹底できているか。 ②地域とのつながりの中でイベントへの積極的な参加や交流を行っているか。 ③面談を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①校内の巡回指導や登下校時の通学路におけるマナー指導を定期的に行い現状の把握に努め、基本的な生活習慣の確立を促す。 ②地域のボランティア、イベントをはじめ様々な活動を全体に周知し、積極的な参加を呼び掛ける。 ③生徒の現状、悩みなどの内面を知る上で積極的にコミュニケーションを取る。また、面談を定期的に行い、不安を解消できる取り組みを行う。 ※生徒・教職員による「学校生活満足度調査(アンケート)」の実施	①特に通学時等、公共の場におけるマナーにおいて、配慮に欠ける生徒が少なからずいる。挨拶運動を行い、意識づけを行っており、来校者の方にもしっかりと行われている。 ②生徒会本部役員を中心に各行事において積極的な活動を行っている。高校生とともにボランティア活動も積極的にしている。 ③現状把握における取り組みを積極的に進めている。その効果もあり、生徒はメリハリのある学校生活を送れている。	①教職員全体が現状把握に努め、指導体制を確立できているか。マナー指導において生徒が自ら気づき、自覚を促す指導ができているか。 ②生徒会担当教員も生徒とともに積極的に参加し、生徒の活動状況の確認を行う。 ③教員から積極的に挨拶・声かけを行う。	①電車やバスなど通学内における公共交通機関利用におけるマナーについては、一部の生徒に配慮に欠ける行動が見られた。挨拶については、生徒会活動における挨拶運動の取り組みもあり、来校者の方にも礼儀良く積極的に関わり合い姿勢が見られた。 ②中学独自活動と中高ともに行う生徒会活動において積極的な取り組みが見られた。地域のボランティア活動への積極的な参加等、高校生とともに様々な活動を行った。 ③積極的な挨拶など生徒の良い取り組みが実践できていた。また、生徒の現状を把握するために個人面談を積極的に行うなど、不安や悩みを理解し、解消できるような環境を作った。	B	①少数ではあるが、マナー等で配慮に欠ける行動が見られた。現状の課題を整理し、克服に向け今後も継続的な指導に努める。クラス担任による指導はもとより、全体朝礼等の時間を活用し指導を行っていく。 ②ボランティアのみならず、地域との交流を含め、生徒が様々な経験・体験ができる環境づくりを行う。 ③教員からの声かけを積極的に行うことで、生徒がいつでもコミュニケーションを取れる環境を作る。
3	①体育・スポーツ活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。	①部活動等においても、自らの目標を設定し、達成に向けた継続的な取り組み、挑戦する姿勢が見られるか。 ②個人面談を通して、生徒が抱える不安の解消など精神的な支援ができているか。	①部活動においても、目標を設定し、仲間と切磋琢磨し、努力ができるような働きかけを行う。 ②生徒の状況把握を行うために積極的な声かけ、個別面談を行う。また、SNS講演会など現在の生徒が直面している問題における考え方や解決方法を伝えていく機会を作る。	①学習と部活動の両立を図り、自前で時間を管理し、メリハリのある活動を行うことができていた。 ②現状を把握するために個別面談や積極的な声かけを行っていた。トラブルが起こりやすいSNS使用についても状況把握に努める。	①施設等の環境を整備し、充実した活動ができているか。また、高校生など良い模範を参考にレベルアップを図ることができたか。 ②生徒の状況を全教員が共有し、情報交換ができるか環境・休養を作る。	①高校生と活動とともにする部もあり、全国大会でも活躍する高校生を間近に見て、同じ環境で切磋琢磨することで刺激を受けることができた。 ②SNSで起こり得るトラブル等の実態を精査し、未然に防ぐ取り組みを行った。	B	①生徒が目標達成に向けて計画的な指導をしていく。豊かな人間性を育てるために活動は競技力の向上のみならず成長の場であることも認識させる。 ②SNSの対応には情報交換と情報共有が重要となる。教員が講習会に参加し、様々な情報を得ることを大切にする。保護者に対しても、適切な利用方法について理解を求める働きかけを積極的に行う必要がある。
4	①使える英語力を身につける。 ②プロジェクト学習「世界」をテーマに課題探求プログラムを実践する。 ③語学研修(ブリティッシュヒルズ語学研修・海外修学旅行・海外語学研修・国内語学研修)の実施による実践的な学びの機会を作る。 ④帰国子女の積極的な受け入れによる活性化を図る。 ⑤全学年IB(国際バカロレア)導入による学習効果の向上を目指す。	①学んだ英語に関する知識を活用して自分の考えを発信することができるか。 ②世界を意識する・知ることで様々な事象を多面的に捉え、広い視野で物事を見る目を持たせることができるか。 ③それぞれの語学研修を通して積極的にコミュニケーションを取り、スキルアップにつなげることができているか。 ④帰国子女生徒が他生徒に良い刺激や影響を与えることができるか。 ⑤MYP(中等教育プログラム)における学習効果がグローバル人材の育成につなげることができるか。	①授業内においても英語によるプレゼンテーションの機会を設けることで実際に話す経験を積極的に積む。姉妹校や交流校の生徒が来校した際は授業中だけでなく、放課後の時間も進んで英語で交流できる。 ②外国文化を理解するだけでなく、発展途上国の問題等問題提起を行い、対策を考える。 ③語学研修に積極的に参加できるように周知を行う。研修を通してコミュニケーション能力を向上につなげるように支援する。 ④帰国子女が語学力を更に向上させていくことで他の生徒に良い刺激を与えることができる。海外の募集活動も活性化させている。 ⑤アクティブラーニング的な手法を用いた授業を実践する中で生徒が主体的な活動を実践できる環境を作る。また、研究授業を行い、全教員が情報共有できる体制を作る。	①特にIB英語の授業内で英語によるプレゼンテーションや発表を行った。姉妹校や交流校の生徒が来校した際は授業中だけでなく、放課後の時間も進んで英語で交流できた。 ②それぞれの研修で生徒が高いモチベーションで取り組むことができ、学習効果が上がったと実感できた。調べ学習を通して外国文化を知り、理解を深め、様々な課題を抽出し解決策を考えた。 ③ブリティッシュヒルズ語学研修には1.2年生が参加。オーストラリア語学研修に22名参加した。3年生はニュージーランド修学旅行を通して日常的に学んでいる英語の実践を積極的に進めた。 ④帰国子女の語学力の高さに刺激を受け、英語力向上のモチベーションも高まっている。海外の募集活動も活性化させている。 ⑤教員・生徒ともにIB教育への理解が深まり、授業展開においても質が高まっている。	①授業展開において生徒が主体的に学ぶ環境はできているか。また、授業で取り上げる題材等は適切か。 ②授業を展開する中で、課題を見つけて調べる・まとめる・発表するという活動を通して様々な問題に対して主体的に課題に取り組むことができるようになったか。 ③それぞれの語学研修で国際交流をする中で、成果として自らの語学力向上やモチベーションの向上につなげることができたか。 ④帰国子女の英語力を身近に感じることでモチベーションの向上につながるなど他の生徒に良い影響をあたることができているか。生徒募集においては海外在住の日本人に対して認知度を高めることができたか。 ⑤授業実践における教員間の情報共有とともに質の高い授業展開につなげることができたか。	①中学校における英検の取得率は、積極的な姿勢と普段の授業での発話の多さにより99.2%である。今年度は、直近3年間で在籍生徒数が増加しながら、かなり高い割合での取得を達成した。合格に向けた姿勢が担任を中心に中学校全体で行われているので、今後も更に高い級での合格者数増加に期待することができる。 ②積極的に参加する生徒が増えていることから、学習意欲の向上、主体的に学ぶ意欲を持つ生徒が増えている。 ③姉妹校から短期留学生が訪れた際には、生徒も積極的に交流し、刺激を受けることができたのが非常に良い。 ④帰国子女に刺激を受け、将来を見据えた中で語学力向上に対してモチベーションの向上につながった生徒が増えている。海外での募集活動においては進路実現等、生徒の頑張りもあり、認知度も高まっている。 ⑤IB授業の定着の中で主体的に学ぶ姿勢や授業展開において考えさせる時間が増えたことで高い思考力を身につけている。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して表現する力も身につけている。今後もさらに質を高めていきたい。	B	①英語教育に関するノウハウを蓄積し、すべての教員が様々な形で生徒の英語力を伸ばせるような仕組みを作る。 ②調べ学習等を通して、生徒が主体的に学び、モチベーション向上につながる取り組みを行う。今後も継続した取り組みを行っていく。 ③短期留学生との交流によって、積極的に英語を使うことで生きた学びにつながっている。今後も英語を活用できる学校行事を増やすことを検討していく。 ④IB教育により海外における本校の認知度も高まってきている。今後も帰国子女募集活動を継続していく。教職員全体として帰国子女生徒の情報共有を共有する場を設ける。 ⑤生徒が主体的に学ぶ姿勢は確実に高まってきている。今後はさらに授業展開における工夫をしていく。

学校関係者評価	実施日 平成30年3月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	①生徒が主体的に学び、結果として学力向上に向けたモチベーションが高められることが大切となる。生徒自身も現状を把握することで成長につながる。そのため、具体的にフィードバックしていくことが大切となる。 ②体験学習や体験型プログラムを通して、生徒の主体的な学び、学習意欲の向上につながっている。この取り組みは継続してもらいたい。また、世界を知ることで、見聞を広め、グローバルなものの見方や考え方ができる人材育成に努めてほしい。 ③英検をはじめとする資格の取得について積極的な取り組みが成果としても現れている。更に生徒のモチベーション向上を求めて環境整備を行ってほしい。 ④家庭学習や自主学習の習慣がしっかりとでき始めている。課題克服のためにシステムの活用を積極的に進め、成果、効果を更に上げてほしい。 評価：B
	①通学におけるバス乗車など公共交通機関の利用、自転車通学におけるマナー指導については今後も継続的に行っていく必要がある。クラス担任による指導とともに中学全体の集会的場を活用して周知・徹底していくことが大切となる。 ②高校生とともに様々な活動をする中で良い刺激、影響を受けている。中高一貫の特性を生かし今後もボランティアをはじめ様々な活動にチャレンジしてほしい。 ③生徒の現状、内情を把握するために積極的にコミュニケーションをとるなどの働きかけを継続して行ってほしい。 評価：B
	①全国大会でも活躍的な活躍をする高校生と同じ環境で活動ができることは中学生にとっても有意義な時間となり、刺激を受けることができるので続けてほしい。また、テニス部が初の全国大会出場を果たすなど素晴らしい活躍が見られた。 ②SNSにおける問題は少なからず起こる。そのため積極的な情報収集をしていくことが大切となる。合わせて携帯電話の適切な利用方法についても学年ごとの保護者会等を通して周知していく必要がある。 評価：B

平成30年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求め積極性をあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	--

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標						年 度 評 価 (3月)		実 施 日 平 成 31 年 3 月 28 日
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	中 間 評 価	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	①生徒の大学進学等、進路目標達成を見据え、分かりやすい授業を展開する。 ②進路目標達成に向けた計画および希望進路の実現を図る。 ③英検等、資格の取得を推進する。 ④自主学習時間の確保ができる環境を整え、習慣化させる。	①生徒が学力の向上を目指す上で教材研究の充実化・授業力を実践するためにICTを活用する。 ②各コース・クラスの進路目標達成に向けて、受験指導とともに担任の面談や進路情報を積極的に伝える環境を整える。 ③将来の方向性を考えた中で資格を推進し、取得できるように積極的な取り組みを行う。 ④個々の学習計画および時間管理・工夫ができるようになるための取り組みを積極的に行う。	①教材研究への積極的な取り組み、各大学および予備校等が主催する入試データ分析研修等へ積極的に参加し、情報収集を行う。また、模擬試験の分析を行い、生徒にフィードバックする。ICTを活用し、視覚的にも生徒の興味を引き出す取り組みを行う。 ②進路講演会や大学訪問等を通して進路について真剣に考える環境を整える。また、最新の入試情報を生徒に伝えることで、現状を把握させる。また、チューターを配置し、学習や進路に関する質問対応を行う。 ③英語検定・G-TEC・TOEIC・TOEIC Bridge・漢字検定・語彙読解力検定などを実施する。 ④各授業において小テストの積極的な実施および「スタディサプリ」を活用する。	①進路指導部・学年主任が中心となり模擬試験の分析を行う。担任が生徒個々の弱点を理解し、克服に向けた取り組みを行っている。 ②面談等を通して、目標大学・受験校と現状の学力の精査を行っている。 ③各検定における取得状況を確認し、大学受験を見据えた中でも計画的に積極的に受験ができるように奨励している。 ④各授業において小テストの実施、リクルート社の「スタディサプリ」を活用し、生徒が予習・復習を行う環境作りを行っている。	①授業評価アンケートを12月に実施しており、その結果から自身の授業展開における課題を抽出、改善が図れているか。模擬試験の分析を基に生徒個々へのフィードバック、今後の対策が講じられたか。 ②生徒との面談等を通して、目標とする大学に向けて生徒が主体的に意欲的に学習できる環境を作る働きかけができたか。 ③資格取得に向けた取り組みを促すために生徒が意欲的に取り組む環境を作ることができたか。 ④自主学習が習慣化できるような環境づくり、働きかけができてきたか。	①授業評価アンケートの結果から各自が課題を抽出し、生徒の学力向上を目指す中で教材研究をはじめ、改善する取り組みが見られた。また、模擬試験の結果分析に基づいて、生徒にフィードバックを積極的に行った。授業を行うにあたってICTを活用する状況が見られた。 ②東京大学の合格は出なかったが、旧帝一工や国立大学、G-MARICIの合格者数が過去最高の合格者数が出るなど、成果を上げることができた。 ③英検の級取得率が約86.6%と昨年度より2.4%増加し、全ての学年において取得率が前年度を越えた。特に高校2年生においては2級所持者が、前年度よりも9.3%多い41.4%である。昨年度の準2級所持者が積極的に挑戦した結果であると言える。 ④本校には学習室を2か所完備しており、早朝や放課後の時間において、生徒が積極的に活用している。部活動に所属する生徒も文武両道の意識が高く、部活動終了後にも自習する生徒が多くいる。	B	①授業評価や他教員の授業見学などで自身の課題を克服するための取り組みが活性化できる環境を作り出す。次年度も最難関大学をはじめ志望校合格に向けた対策を計画的に行う。また、生徒の興味関心を引き出し、ICTを活用した授業展開の更なる活性化を図る。 ②学習効果を高めるために、生徒が今以上に主体的に学びを求め環境を作っていく。生徒に具体的な目標を明確化させることを大切にする。昨年度同様、進路後援会や学年集会、担任との面談を定期的に行う。 ③英検指導においては、クラス担任も所持級など現在の状況把握、データ共有を行い、積極的に受験する環境を作る。 ④学習室における活用方法の周知を行うとともに更なる整備など積極的な学習活動を行える環境を作る。
2	①日常においての基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動の充実化を図る。 ③生徒との情報交換、生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。	①生徒が日常において公共の交通機関や施設、自転車などにおいて適切なマナー(礼儀・挨拶・身だしなみ)が守られているか。また、通学においても安全に留意した行動が取れているか。 ②近隣・地域など学校外における行事への積極的な参加や交流ができてきたか。 ③日常において、また、面談などを計画的に行い、生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①HRや学年集会を通して、基本的な生活習慣の確立を促す。生活指導部、クラス担任による校内巡回や登下校時の通学路における指導を定期的に行う。校内外におけるマナーをはじめ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②地域主催行事やボランティア活動を周知し、積極的な参加を呼び掛ける。 ③生徒の現状把握に努めていく上で積極的に声を掛け合う。また、定期的に面談を行うことで現状の不安を解消できる取り組みを行う。 ※生徒・教職員による「学校生活満足度調査(アンケート)」の実施	①来校者の方にも積極的に挨拶が行われ、通学路においても安全面を配慮した上でのマナーが守られている。 ②杉戸町主催の行事や地域のイベント、ボランティア活動に積極的に参加するなど町の活性化に積極的に協力している。 ③教員側から生徒の現状を理解するための積極的な働きかけができてきた。	①校内巡視および登下校時に通学路指導を行い、現状の把握を行う。 ②地域のボランティア活動にも教員が積極的に参加し、生徒の活動状況把握に努める。 ③校内において教員から挨拶や言葉づきりを行うなど積極的な働きかけを行う。	①登下校時の通学マナーについては、大きな問題は見られなかった。被害者のみならず加害者にもなり得る、自転車通学についても定期的に講習会を行い、危険事項等、配慮すべき点を伝達した。安全管理においては毎年確実に取り組む環境を作る。 ②近隣の小学校からの学習ボランティアを始め活動への参加依頼が多くあり、生徒も積極的に参加し活躍できる機会を多く作ることができた。 ③日常的に積極的な挨拶を行うなど気持ちの良い環境を作る生徒の良い取り組みが見られた。また、個人面談等を通して現状を理解し、悩みに対する対応等より良い方向性に向く環境を作った。	B	①登下校時において事故怪我につながる状況はなく、また、通学マナーにおいても大きな問題はなかった。自転車通学においても安全運転指導の講習会を行い、生徒のより良い行動が見られた。 ②杉戸町や近隣地域の学校から学習指導ボランティアの依頼が数多くあり、生徒も積極的に参加し、様々な経験をすることができた。生徒の活躍の場が広がる中で新たな企画の立案など更に積極的に取り組むことができる環境を作る。 ③積極的に挨拶を行うこと、個人面談の実施によって生徒と積極的にコミュニケーションをとっている環境をさらに発展させる。
3	①文武両道を具体的に実践する。 ②教育相談を充実させる。	①文武両道が実践されているか。学校生活状況の把握を行う。 ②個人面談等を通して生徒の現状における悩みの解決、精神的な支援ができてきたか。	①時間を効果的に活用していくためのアドバイスを積極的に提供する。部活動の指導においても、競技力向上だけでなく学習においても積極的に取り組むための働きかけを行う。 ②生徒・教職員による学校生活満足度調査を行う。SNS講演会を実施し、起り得る問題に際して未然に防ぐ取り組みを行う。	①関東大会や全国大会に多くの部活動が出場し、素晴らしい結果を残すことができた。競技力の向上のみならず、部活動後に学習室において自習をするなど積極的な取り組みが見られた。 ②クラス担任が個人面談で生徒の現状把握に努めている。	①部活動だけでなく積極的に自主学習にも取り組むことができる環境が整えられているか。 ②生徒との個人面談等を積極的に進めているか。SNSにおける問題点等の実施を理解、把握できているか。	①部活動を計画的に行い、学習時間の確保をすることで文武両道を具体化できる環境が整えられている。関東大会に6部活、全国高校総体には5部活、冬の全国大会には駅伝、女子バスケットボールが初出場するなど活躍した。 ②生徒個々の状況把握は担任をはじめしっかりと行っているが、SNSにおける実態把握には努めたが、使用における課題は残る。	B	①文武両道が習慣化され成果を上げることができ環境は作られてきた。文武両道の体現で進学実績の向上にもつながり、生徒は達成感、充実感を持ち、更なる意欲の向上など今後に期待ができる。 ②SNSの対応においては、校内だけではなく、他校の状況把握を行うことで現状の課題克服に努めていく必要がある。
4	①使える英語力を身につける。 ②語学研修(海外修学旅行・海外語学研修・国内語学研修)の実施、交換留学制度の活用による実践的な学びの機会を作る。 ③帰国子女を積極的に受け入れる環境づくりを行う。	①授業で学んだ知識を積極的に活用し英語で会話ができるか。 ②生徒が積極的に参加する体制を整えることができているか。杉戸町をはじめ、地域とのつながりの中で交流を図っていく。 ③帰国子女生徒が他生徒に良い与えることができるか。	①ネイティブ教員が常駐するInternational Arena(日本語禁止部屋)を有効活用し、生徒が積極的にコミュニケーションをとる機会を増やす。 ②語学研修も積極的に参加できるように周知する。姉妹校への短期留学、セブ島語学研修の実施、校内で行う行事としてハーパー・ドサマー研修を新たに始める。 ③帰国子女が語学力を更に向上させていくことで他の生徒にも還元できる体制づくりを行う。帰国子女募集を強化する。	①休み時間等を利用し、International Arena(日本語禁止部屋)でネイティブ教員と積極的に会話をする生徒が多く見られた。 ②中高合わせて国内語学研修に22名参加、今年新たに新に行ったハーパー・ドサマー・プログラムには26名が参加した。 ③帰国子女の語学力の高さに刺激を受け、切磋琢磨している。校内スピーチコンテストにおいてもレベルが高まっている。	①International Arena(日本語禁止部屋)を積極的に活用し、実践的な英語力の向上に努める生徒が増えているか。 ②姉妹校や交流校から多くの留学生が本校を訪れ授業や学校行事に積極的に参加した。本校生徒にとっても異文化交流の良い機会となった。 ③帰国子女と交流し、英語を学習していく上でモチベーションの向上につながっているか。帰国子女募集において海外の在住日本人への認知度が上がることができたか。	①International Arena(日本語禁止部屋)を積極的に活用し、実践的な英語力の向上に努める生徒が増えている。 ②姉妹校や交流校から多くの留学生が本校を訪れ授業や学校行事に積極的に参加した。本校生徒にとっても異文化交流の良い機会となった。 ③帰国子女と交流し、英語を学習していく上でモチベーションの向上につながった。その結果、主体的な取り組みをする生徒が増えている。	B	①ネイティブ教員が様々な工夫を行い、International Arena(日本語禁止部屋)に多くの生徒が足を運び、楽しみながら英語を学んでいる。大学入試改革にも対応できるよう指導を継続する。 ②今後、更に活性化を図るために姉妹校を増やすことも検討し、候補校の絞り込みを行う。英語を活用できる学校行事を増やす。 ③帰国子女からの刺激を受け、英語への興味・関心、モチベーションの向上につながっている生徒が増えている。

学校関係者からの意見・要望・評価等

①東京大学の5年連続での合格はならなかったが旧帝一工をはじめとする国公立大学には過去最高の67名が合格するなど、成果を挙げることができた。またG-MARCHは過去最高となる147名が合格するなど、学習意欲の向上とともに生徒の主体的な取り組みが結果と現れたと言える。
②生徒の学習意欲の向上は結果を見ても顕著に見られる。現状に満足することなく、更なる向上を目指してもらいたい。また、施設の充実化も合わせて図ってもらいたい。
③大学入試改革に伴い、各大学の入試における変更点等の分析を明確にし、本校生徒の前向きな活動を促すことができるように現状分析をするなど生徒1人1人のサポートをしてもらいたい。
④英検をはじめ、資格取得に向けて積極的な取り組みを更に活性化していく環境を作ってもらいたい。そのために、大学進学におけるの優位性等も合わせて周知し、生徒の更なるモチベーション向上につなげてもらいたい。
評価：B

①登下校時の通学マナーについては、過去と比較しても非常に良いと褒められることが多い。また、挨拶についても非常に良くできている。校外においては自転車通学者に対しては特にルール・マナー・安全面について事故を未然に防ぐという観点から指導する体制を作ってもらいたい。
②地域交流における生徒の活躍の場が広がったことは非常に良いことだと言える。地域に根差した活動を行うことで地域からも応援される学校にもなり得る。今後も積極的な活動を続けてほしい。
③生徒の現状、状況を把握するための積極的な活動、働きかけを継続してもらいたい。
評価：B

①文武両道の具体的な実践で結果が出ていることは生徒にも励みになる。更なる向上を目指す上での環境・体制づくりを行ってもらいたい。全国大会などの高いレベルでの活動は大きな成長につながるきっかけとなる。過程を大切にする中で更なる成長を求めてもらいたい。
②社会的にも大きな問題になり得るSNS利用に関しては、現状の把握に努めるとともに、継続的に講習会を行うなど、生徒に使用における危険性など情報発信を積極的に進めてもらいたい。
評価：B

①本校の取り組みであるパワーイングリッシュプロジェクトが効果として表れている。海外をはじめとする語学研修参加者が年々増えており、実践的な語学力を身につけている状況は大変良い状況であると言える。
②今後、更に活性化を図るために姉妹校を増やすことも検討し、候補校の絞り込みを行う。英語を活用できる学校行事を増やす。
③帰国子女からの刺激を受け、英語への興味・関心、モチベーションの向上につながっている生徒が増えている。
評価：B